

# 専 門 分 野 Ⅱ

## 23単位 (600時間)

<ねらい>

- 人間が誕生し成長・発達を遂げ人生を全うする過程における特徴と健康な生活について学ぶ。
- 特に、各発達段階におけるセルフケア支援とよりよい生活について考える。
- 各発達段階において多様な健康課題を有する対象に、科学的根拠に基づき看護実践ができる基礎的能力を養う。
- 人間のもつ機能と能力を障害・喪失することで生じる様々な影響を理解し、その人がその人らしく生活することについて考える。
- 人生の終焉にあるひとと取り巻く人々へ対する看護を学ぶ。
- 対象に共感しながら寄り添う姿勢を養う。

<構 成>

教育内容	科 目	単 位	時 間 数
成人看護学	成人看護学概論	1	30
	呼吸と循環の看護	1	30
	栄養と代謝の看護	1	30
	内部環境の看護	1	30
	認知と運動の看護	1	30
	周手術期の看護	1	15
	人生の終焉の看護	1 / 7	15 / 180
老年看護学	老年看護学概論	1	30
	高齢者の生活支援	1	30
	健康障害をもつ高齢者の看護	1	30
	老年看護過程	1 / 4	15 / 105
小児看護学	小児看護学概論	1	15
	成長・発達への支援	1	30
	小児臨床看護論	1	30
	健康障害のある小児の看護	1 / 4	30 / 105
母性看護学	母性看護学概論	1	30
	妊婦と産婦の看護	1	30
	褥婦と新生児の看護母性看護過程	1	30
	ウィメンズヘルス	1 / 4	15 / 105
精神看護学	精神看護学概論	1	30
	精神の健康を守る看護	1	15
	精神症状のある人への看護	1	30
	精神機能に障害のある人への社会支援	1 / 4	30 / 105
合 計		23	600

# 老 年 看 護 学

## 4 単 位 (105 時 間)

### <ねらい>

老年期はライフサイクルの最終段階であり、人生の円熟期である。同時に、加齢による心身の変化の中で自己の老いとの葛藤を持ちあわせている時期でもある。それぞれの人生経験による価値観の個人差は大きく、ニーズも多様化する。また、家族役割の変遷、高齢者の人権と倫理問題、健康長寿と自立支援システムなど、とりまく環境は高齢者の自立した生活に影響を及ぼす。過去も未来も見据えた広い視野で対象を捉え、豊かな生活に向けて支援していくことが求められている。老年期にある人は、死に対して真剣に向かい合う時期で、人生の総まとめとして、安らかな死に向かえるように努めることが求められる。

老年看護学では、健康長寿をめざした介護予防、その人らしい自立した生活への支援、終焉の看護について学ぶ。さらに認知症高齢者への安心、安全、安寧な生活のための看護援助について学ぶ。

### <目的>

高齢者の特徴と高齢社会における老年看護の役割を理解し、加齢と生活障害の程度に応じた、その人らしい生活を支援できる能力を養う。

### <目標>

1. 高齢者のライフステージとその健康課題を理解する。
2. わが国における高齢者の保健・医療・福祉制度の動向と諸問題を理解する。
3. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化を理解し、高齢者の日常生活援助技術を習得する。
4. 健康障害の程度に応じた高齢者の看護を捉え、実践する能力を習得する。
5. 高齢者の個人史(生活史)について理解を深め、自己の老年観を養う。

### <構成>

教育内容	科 目	単 位	時 間 数
老年看護学	老年看護学概論	1	30
	高齢者の生活支援	1	30
	健康障害をもつ高齢者の看護	1	30
	老年看護過程	1	15
合 計		4	105

授業科目名	老年看護学概論			担当教員	畑山美加子		
分野	専門分野	教育内容	老年看護学	総単位 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
急性期から終末期までの、家族を含めた高齢者看護を経験。カテーテル検査・治療や透析等、侵襲を伴う検査・治療での様々な看護の経験を有する。	実務経験を活かし、高齢者の「その人らしさ」を支える高齢者看護と看護師の役割について、事例を通して講義を展開する。

授業のねらい・概要
1. 高齢者の概要と生活を理解する。 2. 加齢による変化の特徴を理解する。 3. 老年看護の役割と機能を理解する。 4. 高齢社会の保健・医療・福祉の現状と課題を考える。

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	高齢者の理解(1) 日本の高齢者	講義	
2	高齢者の理解(2) 加齢変化が日常生活に及ぼす影響①-3側面から捉える	講義/演習	課題シート①
3	高齢者の理解(3) 加齢変化が日常生活に及ぼす影響②	演習	
4	高齢者の強みを捉える(1) 高齢者のこれまでの生活を知る①-生活史	講義/演習	課題シート②
5	高齢者の強みを捉える(2) 高齢者のこれまでの生活を知る②	演習	
6	高齢者の強みを捉える(3) 高齢者の全体像を捉える-ストレングス理論とICF	講義	
7	高齢者の強みを捉える(4) ICFを使ってみよう	講義/演習	課題シート③
8	高齢者の強みを捉える(5) ICFで強みを捉える	演習	
9	高齢者を取り巻く社会(1) 高齢者を支える①-健康長寿への支援と社会現象	講義/演習	課題シート④
10	高齢者を取り巻く社会(2) 高齢者を支える②	演習	
11	高齢者を取り巻く社会(3) 高齢者にとっての健康的な生活①	講義/演習	課題シート⑤
12	高齢者を取り巻く社会(4) 高齢者にとっての健康的な生活②	演習	
13	高齢者の「その人らしさ」を支える看護(1) ユマニチュードを用いた関わり	講義/演習	
14	高齢者の「その人らしさ」を支える看護(2) 多様な生活の場にある高齢者と看護師の役割①	講義/演習	課題シート⑥
15	高齢者の「その人らしさ」を支える看護(3) 多様な生活の場にある高齢者と看護師の役割②	演習	

使用教科書・教材・参考書
系統的看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統的看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院

成績評価の方法
筆記試験70点、提出物30点

備考
・各回のテキスト範囲を熟読して授業に臨みましょう。 ・大事な所はメモをしたりマーカーで線を引き、分からないことは質問をしましょう。 ・個人ワークで学習を深めたいうえで、グループワークに臨みましょう。

授業科目名	高齢者への日常生活支援			担当教員	正武家由美子 畑山美加子		
分野	専門分野	教育内容	老年看護学	総単位 時間数	1単位 30時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
病院での臨床経験を有し、周手術期から回復期・終末期の看護を経験。手術療法・化学療法や退院・転院支援などの看護を実践している。	実務経験を活かし、高齢者の全体像と強みを捉えその人らしい自立に向けた援助について、事例を通して講義を展開する。

授業のねらい・概要
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加齢による身体の変化が日常生活に及ぼす影響を理解する。</li> <li>2. 加齢により生じた機能障害に必要な日常生活援助を理解する。</li> <li>3. 高齢者に必要なリハビリテーションの意義を考えることができる。</li> <li>4. 高齢者に必要な生活環境がわかる。</li> </ol>

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	コミュニケーションが取りにくい高齢者への看護(1) 加齢変化と中核症状・BPSDが日常生活に及ぼす影響	講義/演習	課題シート①
2	コミュニケーションが取りにくい高齢者への看護(2) 関わりの中から対象を知る-ユマニチュードを用いて	講義/演習	
3	コミュニケーションが取りにくい高齢者への看護(3) 全体像と強みを捉える①-生活史を踏まえて	講義/演習	課題シート②
4	コミュニケーションが取りにくい高齢者への看護(4) 全体像と強みを捉える②	演習	
5	コミュニケーションが取りにくい高齢者への看護(5) 家族への支援-関わりの中から家族を知る	講義/演習	
6	コミュニケーションが取りにくい高齢者への看護(6) その人らしい自立と社会資源	講義/演習	課題シート③
7	コミュニケーションが取りにくい高齢者への看護(7) その人らしい自立に向けた援助①	講義/演習	
8	コミュニケーションが取りにくい高齢者への看護(8) その人らしい自立に向けた援助②	演習	
9	生活行動に支援が必要な高齢者への看護(1) 加齢変化と後遺症が日常生活に及ぼす影響-脳梗塞後	講義/演習	課題シート④
10	生活行動に支援が必要な高齢者への看護(2) 関わりの中から対象を知る-ADL、IADLをアセスメントする	講義/演習	
11	生活行動に支援が必要な高齢者への看護(3) 全体像と強みを捉える①-生活史を踏まえて	講義/演習	
12	生活行動に支援が必要な高齢者への看護(4) 全体像と強みを捉える②	演習	
13	生活行動に支援が必要な高齢者への看護(5) 高齢者世帯の介護を考える-関わりの中から介護負担を知る	講義/演習	
14	生活行動に支援が必要な高齢者への看護(6) その人らしい自立に向けた援助①-レスパイトケアを踏まえて	講義/演習	課題シート⑤
15	生活行動に支援が必要な高齢者への看護(7) その人らしい自立に向けた援助②	演習	

使用教科書・教材・参考書
系統的看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統的看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院

成績評価の方法
筆記試験70点、提出物30点

備考
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各回のテキスト範囲を熟読して授業に臨みましょう。</li> <li>・大事な所はメモをしたりマーカーで線を引き、分からないことは質問をしましょう。</li> <li>・個人ワークで学習を深めたうえで、グループワークに臨みましょう。</li> </ul>

授業科目名	健康障害をもつ高齢者の看護			担当教員	畑山美加子 正武家由美子		
分野	専門分野	教育内容	老年看護学	総単位 時間数	1単位 30時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
急性期から終末期までの、家族を含めた高齢者看護を経験。カテーテル検査・治療や透析等、侵襲を伴う検査・治療での様々な看護の経験を有する。	実務経験を活かし、様々な病期にある高齢者を生活機能の視点からアセスメントし、実践的な看護展開に結び付ける講義を展開する。

授業のねらい・概要
1. 健康障害のある高齢者を理解する。 2. 治療過程における高齢者の看護を理解する。 3. リハビリテーションと自立支援について理解する。 4. 高齢者の終末期看護を考える。

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	侵襲による大きなリスクを伴う高齢者への看護(1) 入院・治療が高齢者の3側面に与える影響	講義/演習	課題シート①
2	侵襲による大きなリスクを伴う高齢者への看護(2) 安全に検査を受けるための援助	講義/演習	
3	侵襲による大きなリスクを伴う高齢者への看護(3) 侵襲によるリスクに対する援助	講義/演習	
4	侵襲による大きなリスクを伴う高齢者への看護(4) 侵襲からの回復に向けた援助	演習	
5	侵襲による大きなリスクを伴う高齢者への看護(5) 退院を見据えた援助①-生活リハビリテーションの視点から	講義/演習	課題シート②
6	侵襲による大きなリスクを伴う高齢者への看護(6) 退院を見据えた援助②	演習	
7	急性憎悪を繰り返す高齢者への看護(1) 疾患と症状の理解とアセスメント	講義/演習	課題シート③
8	急性憎悪を繰り返す高齢者への看護(2) 急性憎悪をきたさないための援助①	講義/演習	
9	急性憎悪を繰り返す高齢者への看護(3) 急性憎悪をきたさないための援助②	演習	
10	急性憎悪を繰り返す高齢者への看護(4) 退院を見据えた援助①-家族への支援を視野に入れて	講義/演習	課題シート④
11	急性憎悪を繰り返す高齢者への看護(5) 退院を見据えた援助②	演習	
12	急性憎悪を繰り返す高齢者への看護(6) 地域との継続看護	講義/演習	
13	高齢者のエンドオブライフケア(1) 治療過程での急激な変化による死-家族への支援	講義/演習	
14	高齢者のエンドオブライフケア(2) 老衰死-ACP、リビングウィルと苦痛への援助	講義/演習	課題シート⑤
15	高齢者へのエンドオブライフケア(3) その人らしく生ききるための援助	演習	

使用教科書・教材・参考書
系統的看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統的看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院

成績評価の方法
筆記試験70点、提出物30点

備考
・各回のテキスト範囲を熟読して授業に臨みましょう。 ・大事な所はメモをしたりマーカーで線を引き、分からないことは質問をしましょう。 ・個人ワークで学習を深めたうえで、グループワークに臨みましょう。

授業科目名	老年看護過程			担当教員	正武家由美子		
分野	専門分野	教育内容	老年看護学	総単位 時間数	1単位 15時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
病院での臨床経験を有し、周手術期から回復期・終末期の看護を経験。手術療法・化学療法や退院・転院支援などの看護を実践している。	実務経験を生かし、患者と家族を1単位として、退院後の継続看護を踏まえた目標志向型の看護過程の講義を展開する。

授業のねらい・概要
1. 慢性疾患をもつ高齢者の健康問題をアセスメントし、個別性をふまえた看護過程を展開できる。 2. 高齢者とその家族に対するセルフケアの基礎知識・技術態度を理解できる。

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	A氏の全体像を捉える(1) 3側面から全体像を捉える	講義/演習	課題シート①
2	A氏の全体像を捉える(2) 加齢変化と高齢者の特徴を踏まえた危険予測	講義/演習	課題シート②
3	A氏の全体像を捉える(3) ケアの対象としての家族	講義/演習	課題シート③
4	A氏の全体像を捉える(4) 患者と家族を一単位として捉える援助	演習	
5	A氏への看護の焦点の明確化と計画立案(1) 長期目標と短期目標、RUMBAとSMART	講義/演習	課題シート④
6	A氏への看護の焦点の明確化と計画立案(2) 援助と評価	演習	
7	A氏への継続看護(1) サマリーの理解	講義/演習	課題シート⑤
8	A氏への継続看護(2) 退院後の継続看護	演習	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用教科書・教材・参考書
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論

成績評価の方法
筆記試験70点、提出物30点

備考
・これまでの学習の総括になります。学んだことを活用して演習に取り組みましょう。 ・個人ワークで学習を深めたいうえで、グループワークに臨みましょう。